

2021年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2020年8月6日

2021年3月期 第1四半期 サマリー

概況

世界中で拡大する新型コロナウイルス感染症の影響を受け、
経済活動が著しく低下

(単位：百万円)

2021/3 期 Q1

前年同期比

売上高	10,058	△24.1%
営業利益	224	△73.2%
当期純利益※	△322	—

※親会社株主に帰属する四半期純利益 / 為替平均レート 1ドル=107.6円

業績

総括

- ・ 日・米・中ほか、当社の主要な生産拠点では通常通りの操業を継続
- ・ 地域や業種により多少の差はあるものの、ほぼ全ての地域で需要が縮小
- ・ 中国は、足元ではコロナ禍の影響をいち早く脱し、業績は急速に回復
- ・ 基幹システムの活用、生産改革による収益性向上策の推進

1

2021年3月期 第1四半期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

2021年3月期 第1四半期 決算ハイライト

(単位 百万円)	2020/3期 Q1 (4~6月)	2021/3期 Q1 (4~6月)	前年同期比
売上高	13,247	10,058	△24.1%
売上総利益 (売上総利益率)	4,931 (37.2%)	3,576 (35.6%)	△27.5%
営業利益 (営業利益率)	837 (6.3%)	224 (2.2%)	△73.2%
営業外収益	40	109	
営業外費用	291	111	
経常利益 (経常利益率)	587 (4.4%)	222 (2.2%)	△62.1%
特別損益	△4	△5	
法人税等	233	※ 523	
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (当期純利益率)	327 (2.5%)	△322 (△3.2%)	—
EBITDA =営業利益+償却費	1,587	951	

※(株)キトー単体の利益減により、税効果を楽しみえず、連結決算上における税負担増によるもの

注 為替レート (2020/3期Q1→2021/3期Q1) :

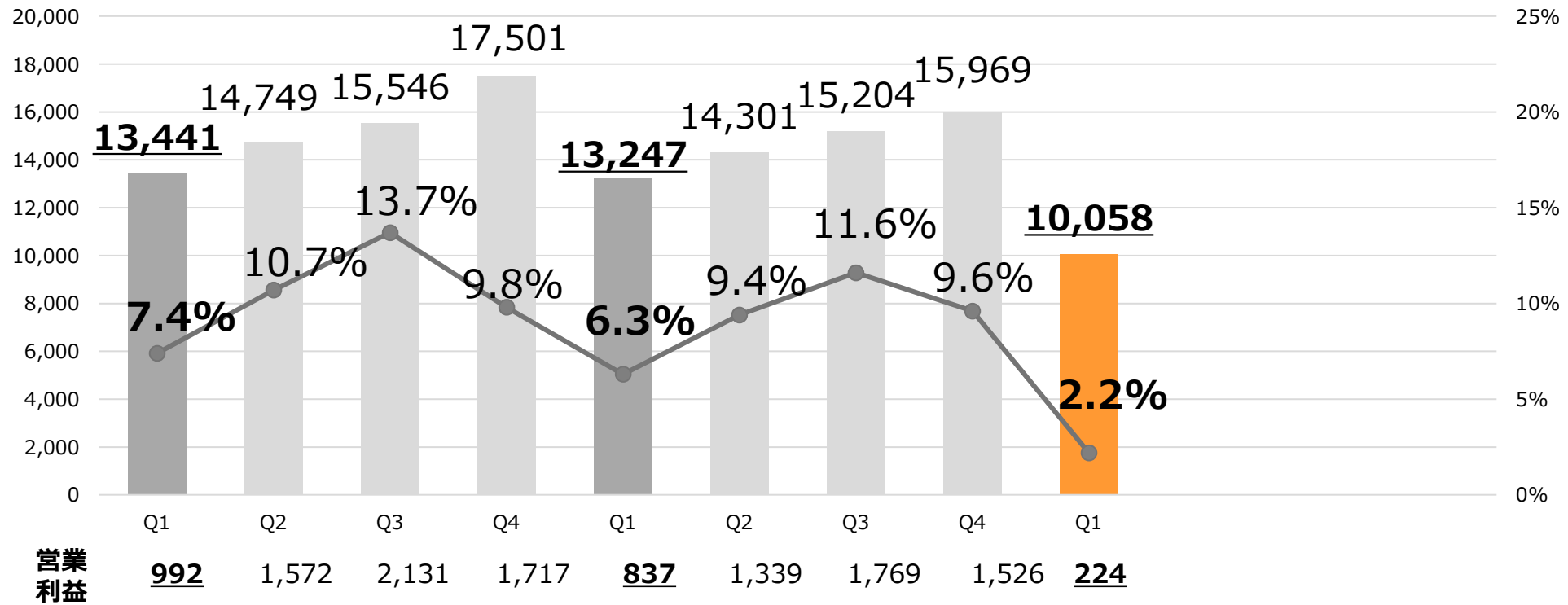
USD 109.9円→107.6円 CAD 82.2円→77.7円 EUR 123.5円→118.5円 RMB 16.3円 →15.6円

売上高および営業利益率（四半期比較）

コロナ禍の影響で経済活動は著しく低下するも、需要環境はQ1で底打ち感。固定費圧縮により利益確保。Q2以降、緩やかな回復の兆し。

(単位：百万円)

■ 売上高 ● 営業利益率



営業利益

992	1,572	2,131	1,717	837	1,339	1,769	1,526	224
-----	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-----

2019/3期
売上高 61,238
営業利益 6,413

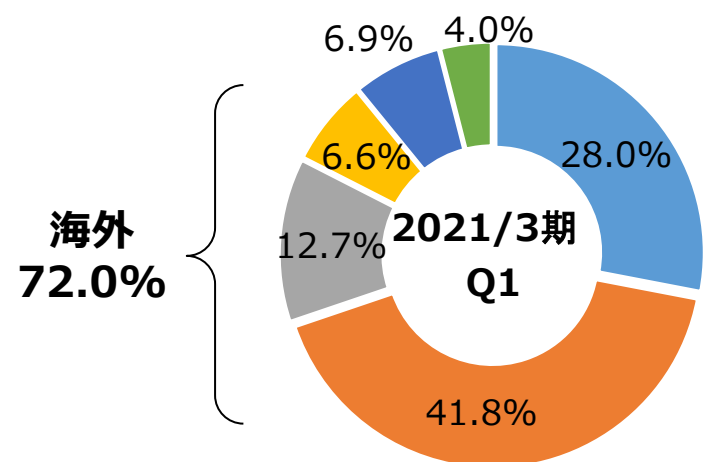
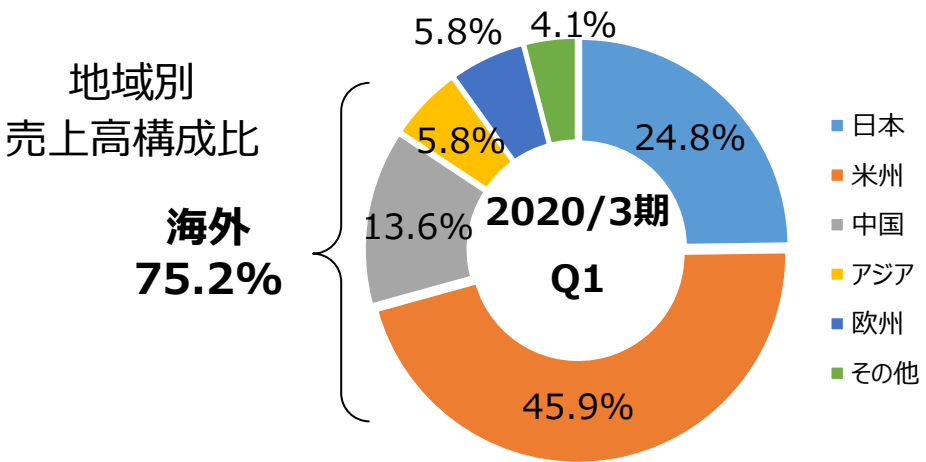
2020/3期
売上高 58,722
営業利益 5,474

2021/3期 (予)
売上高 49,000
営業利益 3,000

地域別の状況

(単位：百万円)	2019/3期 Q1		2020/3期 Q1		2021/3期 Q1		前年同期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	13,441	100.0%	13,247	100.0%	10,058	100.0%	△3,188	△24.1%
日本	3,367	25.1%	3,282	24.8%	2,818	28.0%	△463	△14.1%
米州	5,894	43.8%	6,084	45.9%	4,202	41.8%	△1,881	△30.9%
中国	1,501	11.2%	1,804	13.6%	1,278	12.7%	△525	△29.1%
アジア	1,475	11.0%	763	5.8%	663	6.6%	△99	△13.0%
欧州	606	4.5%	774	5.8%	694	6.9%	△80	△10.4%
その他地域	596	4.4%	538	4.1%	401	4.0%	△137	△25.6%

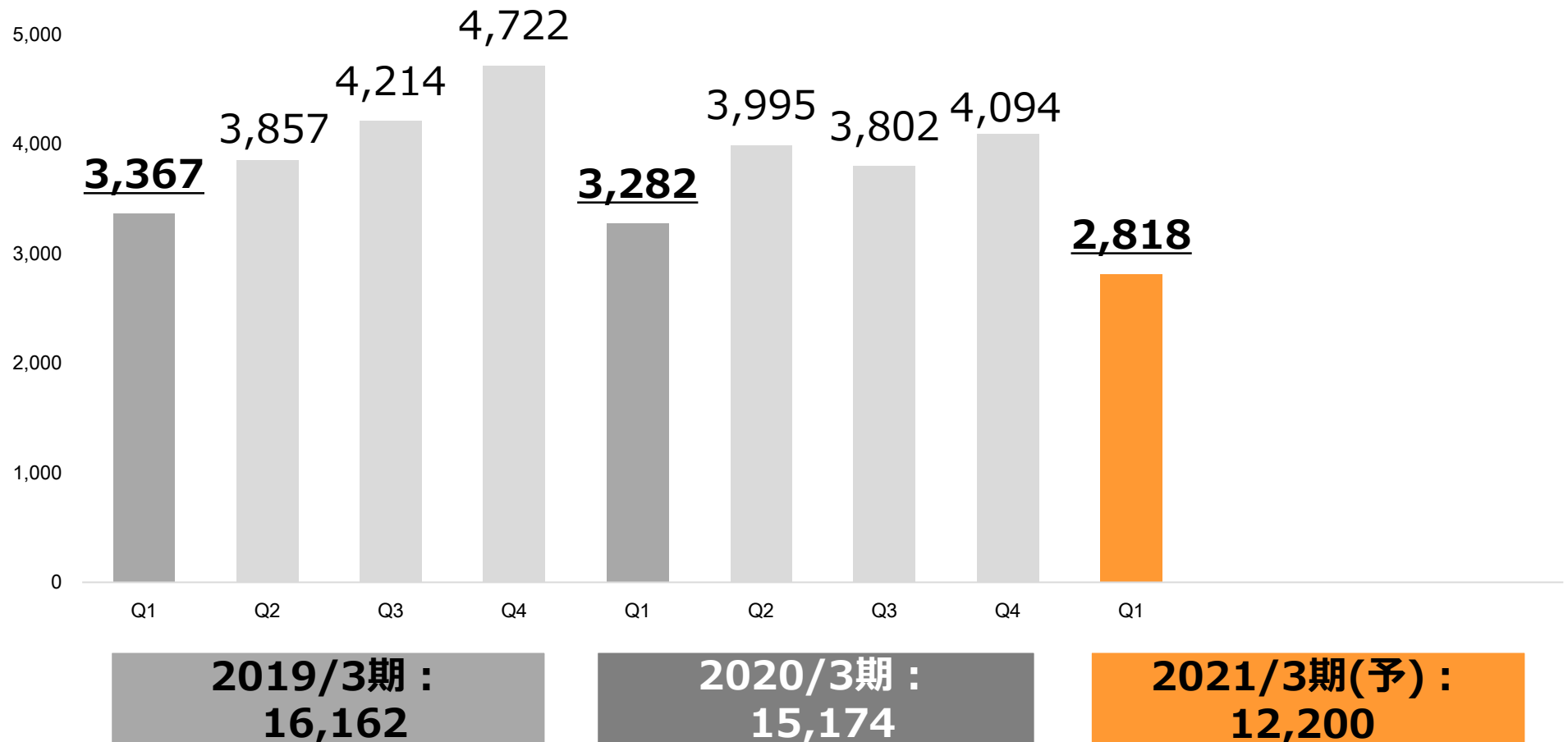
注 為替レート (2020/3期Q1→2021/3期Q1) :
 USD 109.9円→107.6円 CAD 82.2円→77.7円 EUR 123.5円→118.5円 RMB 16.3円→15.6円



地域別売上高（日本）

- Q1中盤に底打ち感。足元の引き合い、受注状況は底堅く推移

（単位：百万円）



地域別売上高（米州）

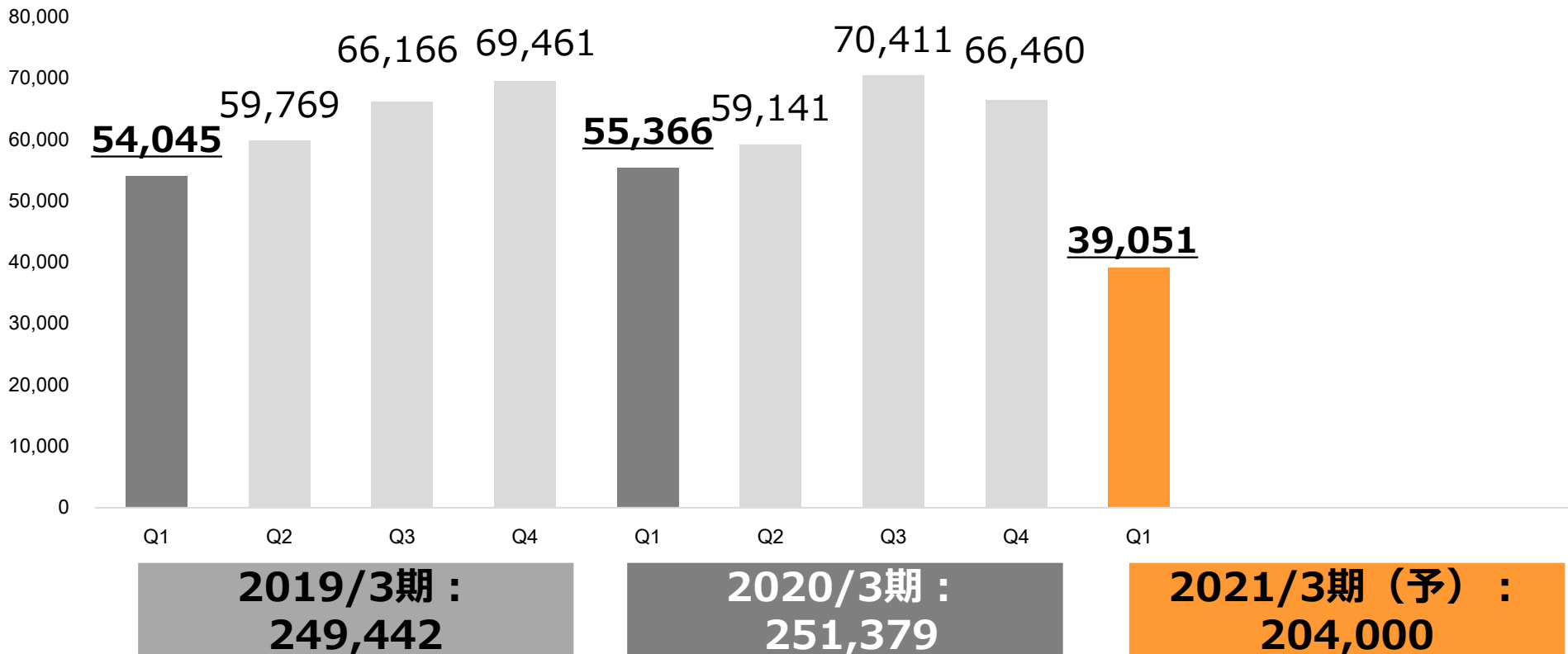
※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USDドル換算）を加算した金額の推移

◇米州事業の特徴

日本と同様にホイストを中心としたマテハン事業に加えて、ピアレス社のクサリ関連事業で構成

● 新型コロナウイルス感染症拡大が続くも、経済活動再開に伴う需要拡大に期待

（単位：千USD）



地域別売上高（中国）

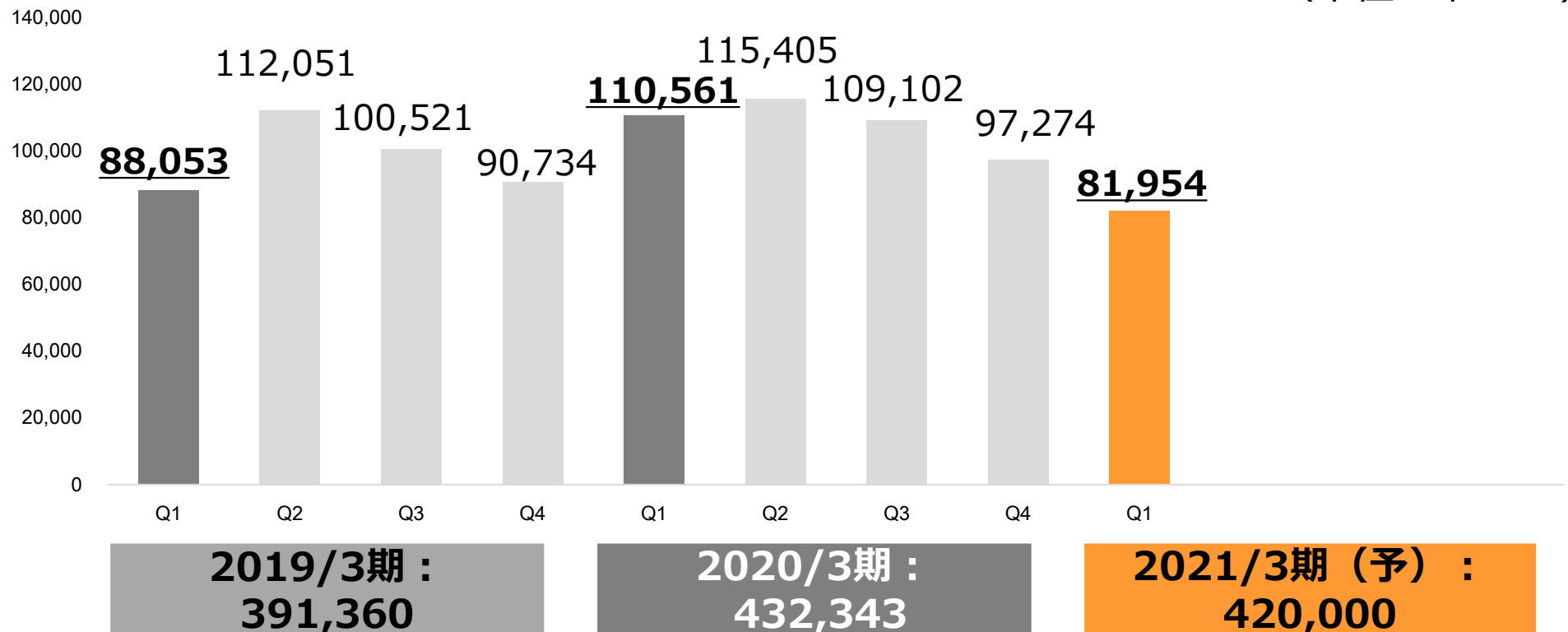
※中国は1-12月決算

◇中国事業の特徴：

中国市場向けロープホイストの製造販売と、日本からの高機能製品の輸入販売が事業の2本柱

- コロナ禍の影響を2月に大きく受ける。世界に先駆け、需要環境は3月にほぼ正常化（中国セグメントは1～3月がQ1）

（単位：千RMB）



地域別売上高（アジア）

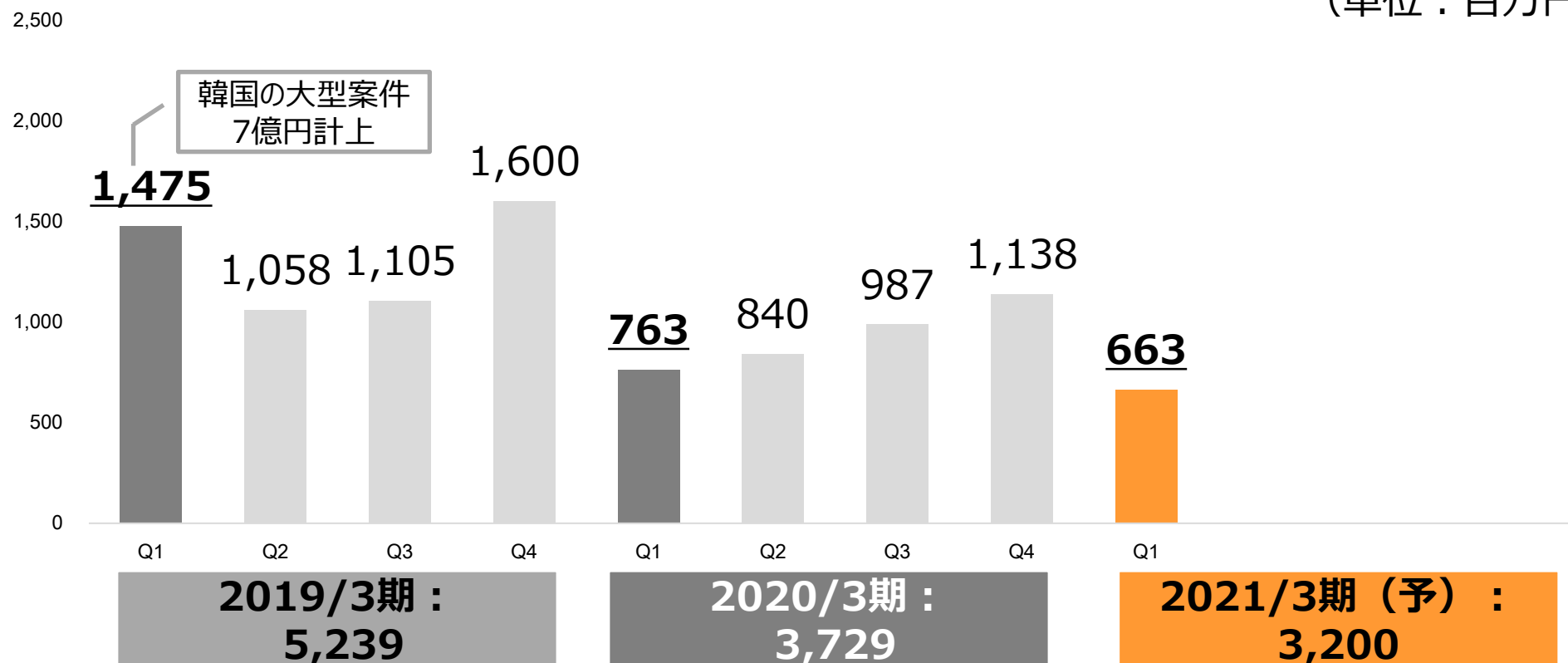
※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

◇アジア事業の特徴：

主軸のタイ、韓国でクレーン事業を手掛ける。事業構造を見直し収益性拡大を図る。

- 欧米地域と比較し、コロナ禍の影響は比較的軽微
- 自動車関連産業をはじめとした設備投資は低迷

（単位：百万円）



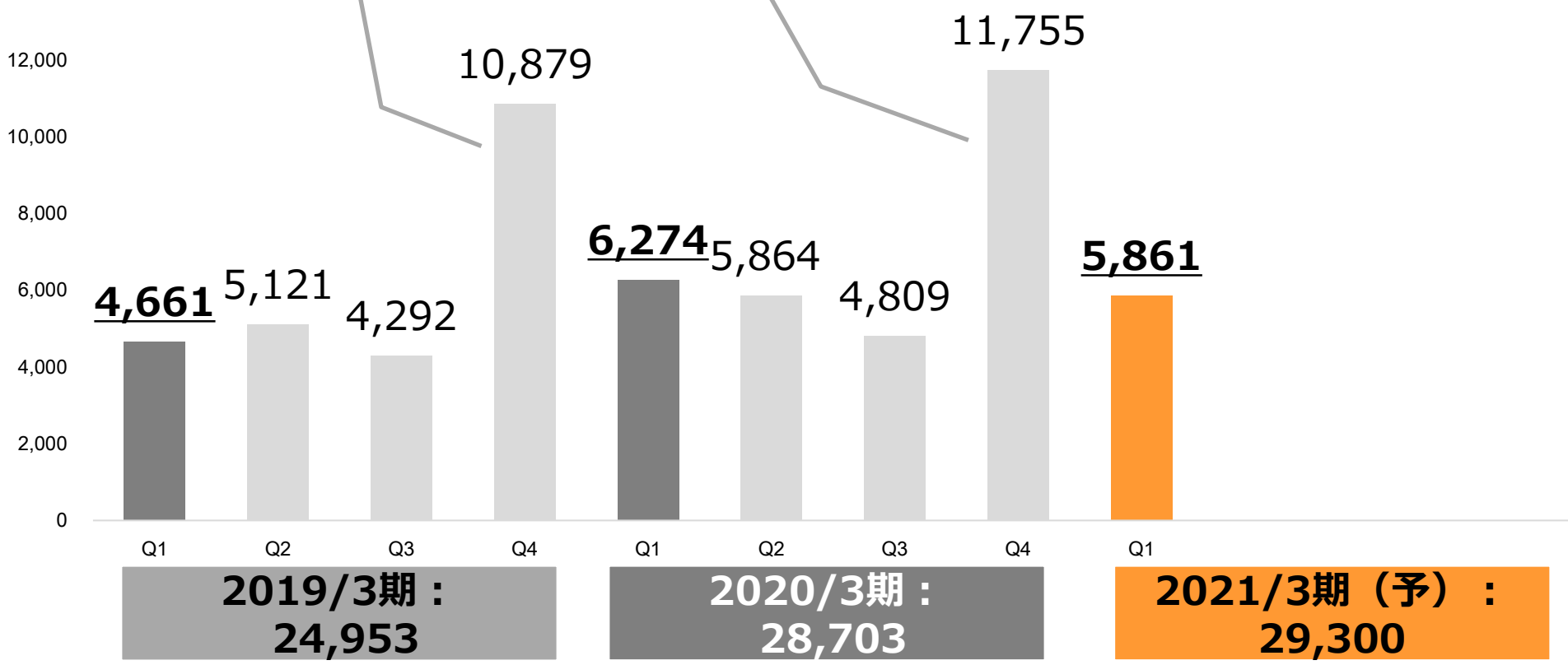
地域別売上高（欧州）

- 2019/3期末にイタリア子会社、2020/3期末にフィンランド子会社の当該1年間の業績を連結化。
- コロナ禍における各地域のロックダウンにより経済活動は停滞

イタリア子会社を連結
(売上高 5,719)

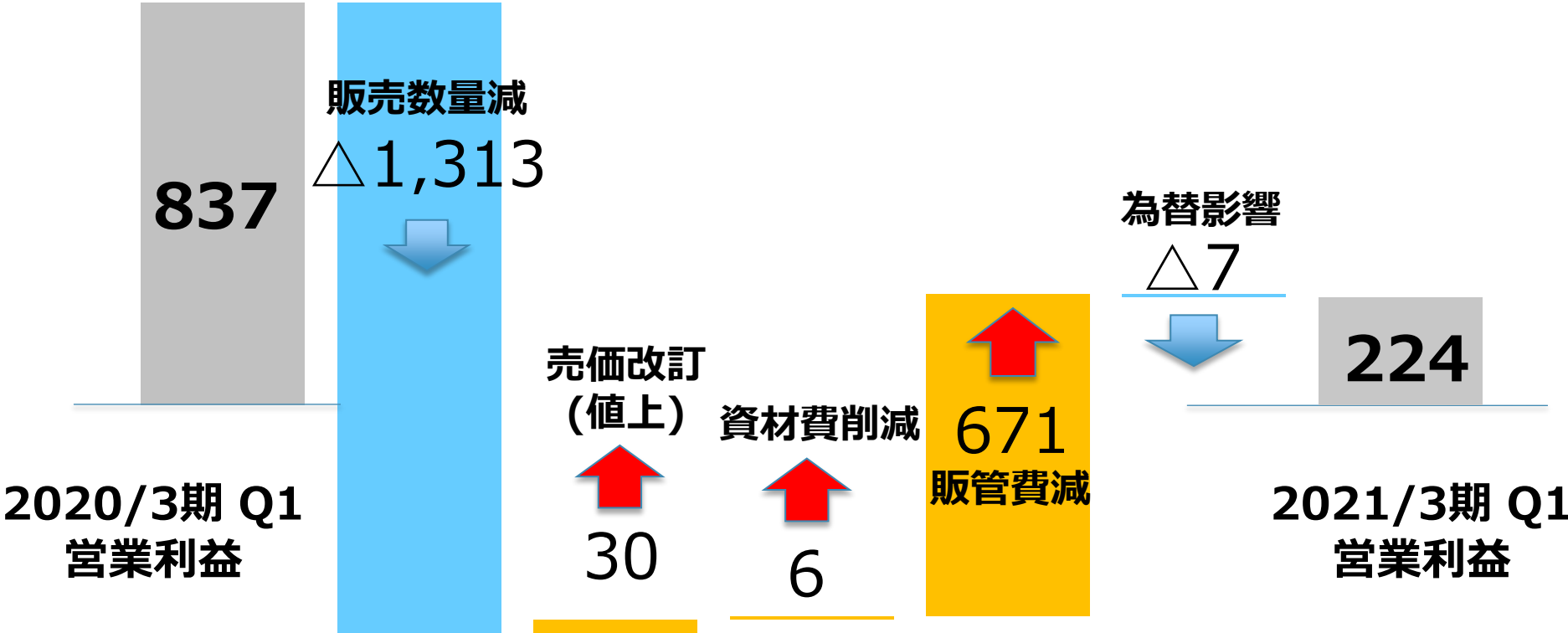
フィンランド子会社を連結
(売上高 5,476)

(単位：千EUR)



営業利益の比較

(単位：百万円)



2021/3期 Q1 連結貸借対照表 (前年同期比)

単位：百万円	2020/3期 Q1	2021/3期 Q1	増減額	単位：百万円	2020/3期 Q1	2021/3期 Q1	増減額
流動資産	38,380	42,816	4,435	流動負債	18,561	23,752	5,191
現金及び預金	8,468	14,708	6,239	支払手形及び 買掛金	6,610	5,248	△1,362
受取手形及び 売掛金	10,062	7,658	△2,403	短期借入金 *	7,209	13,271	6,062
たな卸資産	18,675	18,859	184	その他	4,740	5,231	491
その他	1,174	1,589	415	固定負債	15,404	14,090	△1,314
固定資産	21,830	21,755	△74	長期借入金	11,732	10,183	△1,549
有形固定資産	12,065	12,513	447	その他	3,672	3,906	234
無形固定資産	5,722	5,133	△589	純資産合計	26,244	26,729	484
投資その他の資産	4,041	4,108	67	負債純資産合計	60,210	64,572	4,361
資産合計	60,210	64,572	4,361				

* 1年内返済予定の長期借入金を含む

1

2021年3月期 第1四半期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

日 本

市場環境

- コロナ禍の影響が残るものの、徐々に需要環境も回復傾向へ
- 民間設備投資は低調なるも、インフラ関連需要に期待

取り組み

- 営業蓄積データ活用による、販売活動の強化
- 固定費削減を推進し、収益力向上を図る
- 生産性向上のための設備投資継続

米 州

市場環境

- 需要の低迷が続くも、シェアは漸増
- 経済活動再開により、受注ペースは徐々に改善

取り組み

- 納期短縮、質の高いサービス提供によりシェア拡大を目指す
- 経費削減効果による利益改善

中 国

- 市場環境**
- コロナ禍をいち早く脱し、経済活動を再開
 - 環境、品質に対する意識の高まりによりシェア拡大傾向
- 取り組み**
- 好調業種の設備投資需要を捉え、販売拡大を図る
 - 価格競争に一線を画した、利益重視の販売活動

ア ジ ア

- 市場環境**
- 東アジアにおけるコロナ禍の影響は他地域と比較し軽微
 - 東南アジアにおいては、自動車業界を中心に需要が低迷
- 取り組み**
- クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化
 - 自動車産業以外の顧客開拓を強化

欧 州

- 市場環境**
- 経済活動再開に伴う需要回復に期待
- 取り組み**
- 買収子会社による相乗効果で、さらなる事業拡大

2021年3月期 業績予想の考え方（コロナ禍の影響について）

生産への影響

・日・米・中をはじめ主要生産拠点の操業、サプライチェーンへの影響は、ほぼ無し

2021年3月期の需要見通しについて

- ・日・米ともQ1で低迷するも、Q2以降に徐々に回復フェーズへ
- ・中国は、2月の春節明け直後から通常稼働、需要も底打ち、4月以降回復基調、下期（7～12月）で取り戻し、通期売上で前年並みを見込む

	2020年1-3月	4-6月 (Q1)	7-9月 (Q2)	10-12月 (Q3)	2021年1-3月 (Q4)
日本		5月需要急減も 6月以降回復の兆し	～回復フェーズ		
米州	3月～需要減が 顕在化	需要低迷が続く	7月以降の回復を 期待	～回復フェーズ	

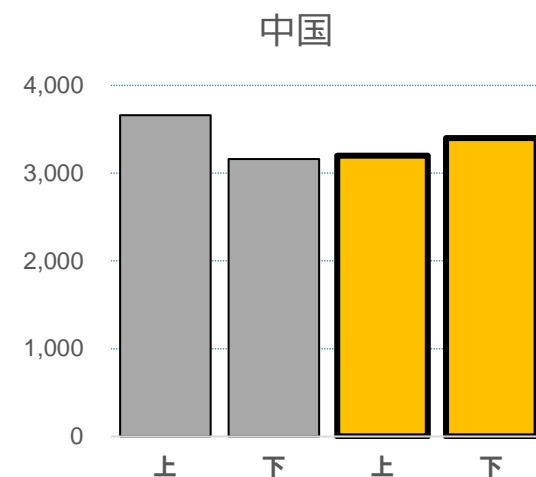
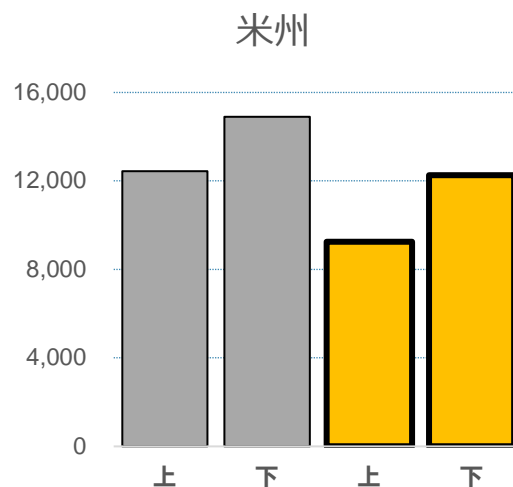
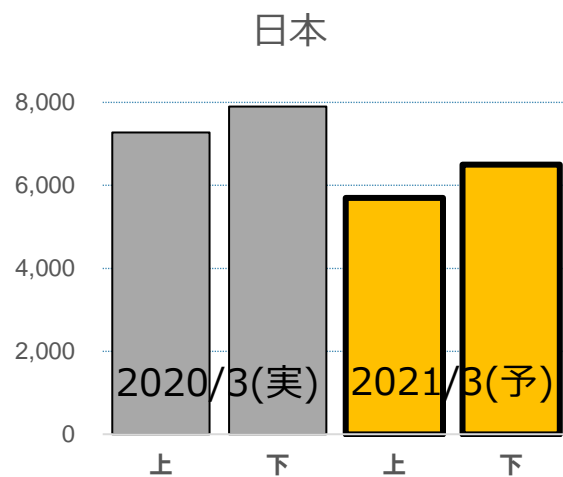
	2020年1-3月 (Q1)	4-6月 (Q2)	7-9月 (Q3)	10-12月 (Q4)
中国	2月に底打ち	～回復フェーズ		

2021年3月期 業績予想 (地域別)

(単位：百万円)	2020/3期		2021/3期 (予想)				前期比	
		構成比	上期	下期	合計	構成比	増減額	増減率
売上状況	58,722	100.0%	21,000	28,000	49,000	100.0%	△9,722	△16.6%
日本	15,174	25.8%	5,650	6,550	12,200	24.9%	△2,974	△19.6%
米州	27,332	46.6%	9,200	12,300	21,500	43.9%	△5,832	△21.3%
中国	6,822	11.6%	3,200	3,400	6,600	13.5%	△222	△3.3%
アジア	3,729	6.4%	1,050	2,150	3,200	6.5%	△529	△14.2%
欧州	3,467	5.9%	950	2,550	3,500	7.1%	33	1.0%
その他地域	2,196	3.7%	950	1,050	2,000	4.1%	△196	△8.9%

注 為替レート (2020/3期→2021/3期) :

USD 108.7→105.4円 CAD 81.8→83.6円 EUR 120.8→119.5円 RMB 15.8 →15.8円



2021年3月期 業績予想

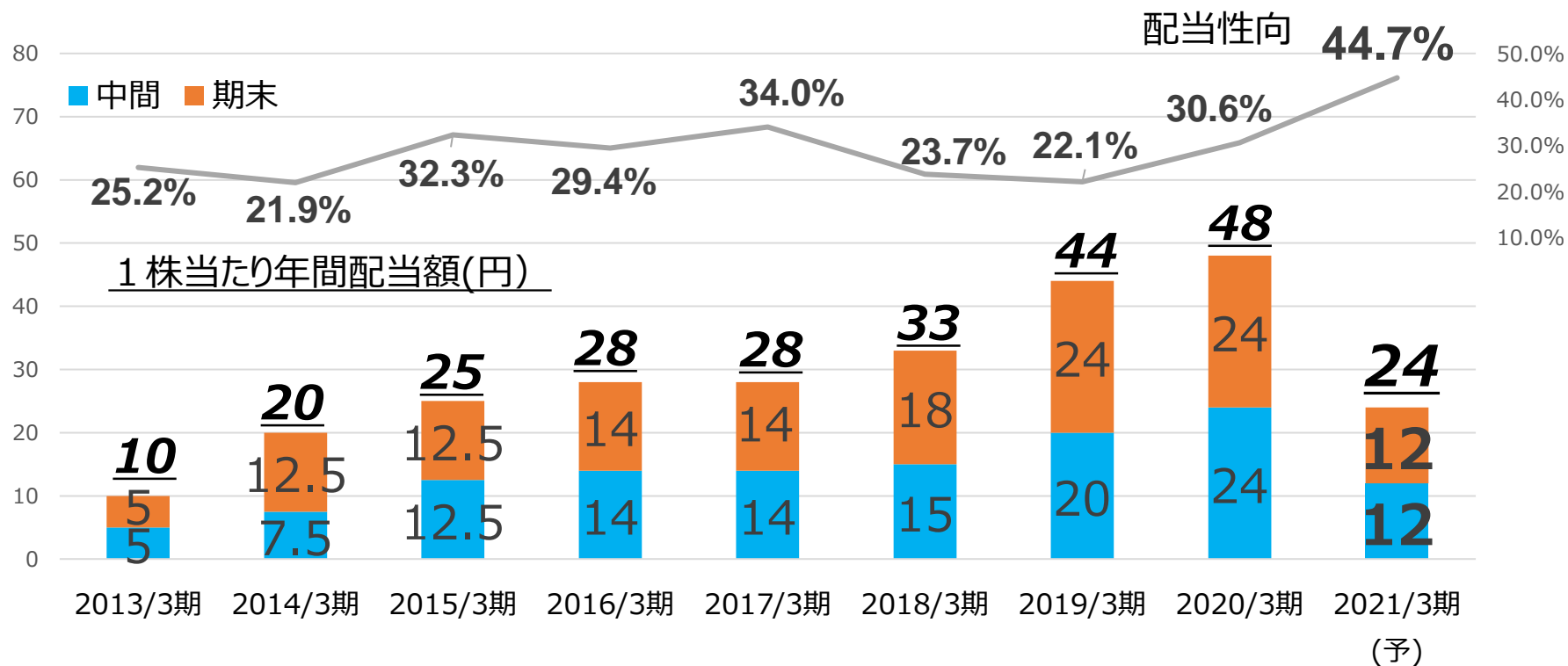
(単位：百万円)	2020/3期	2021/3期予想			前期比
		上期	下期	合計	
売上高	58,722	21,000	28,000	49,000	16.6%
営業利益	5,474	650	2,350	3,000	45.2%
(営業利益率)	9.3%	3.1%	8.4%	6.1%	
経常利益	4,991	500	2,250	2,750	44.9%
(経常利益率)	8.5%	2.4%	8.0%	5.6%	
親会社株主に帰属する					
当期純利益	3,204	500	1,600	1,100	65.7%
(当期純利益率)	5.5%	—	5.7%	2.2%	
EBITDA	8,508	2,150	3,850	6,000	
=営業利益+償却費					
設備投資	1,689	—		2,500	

注 為替レート (2020/3期→2021/3期) :

USD 108.7→105.4円 CAD 81.8→83.6円 EUR 120.8→119.5円 RMB 15.8 →15.8円

株主還元方針／配当予想

2021/3期配当予想は、今期業績予想及び、来期以降における業績回復を視野に入れ24円とする



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2021年3月期 第1四半期 決算報告

2

2021年3月期 見通し

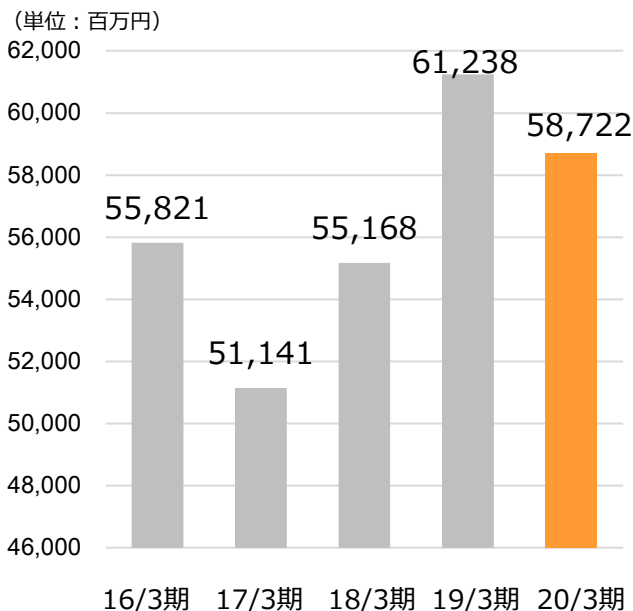
3

参考資料

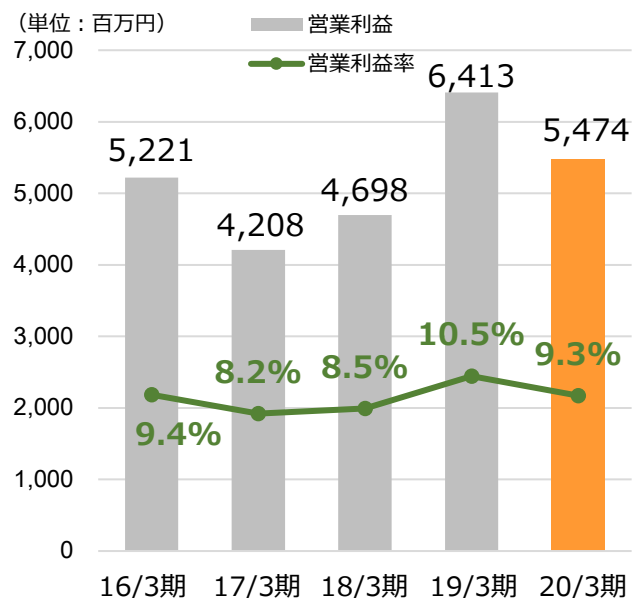
- 過去5期分の業績・財務情報（2016年3月期-2020年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

業績・財務情報

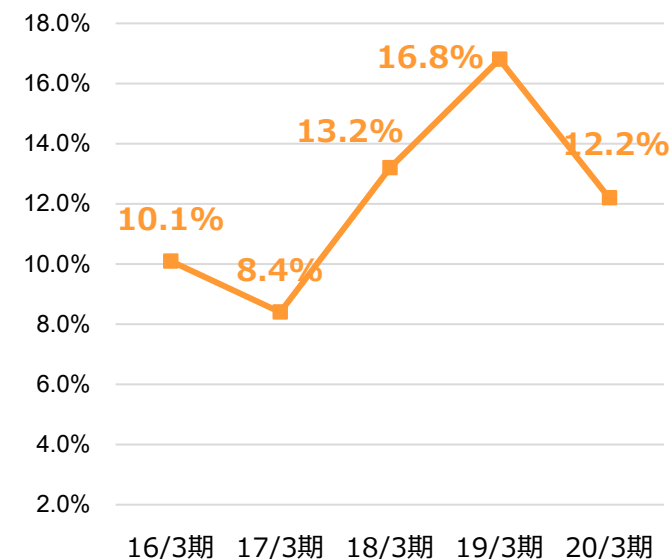
売上高



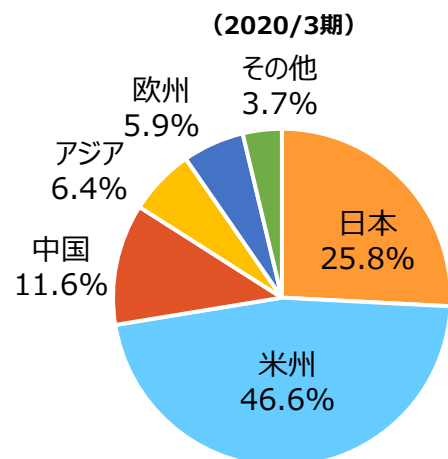
営業利益・営業利益率



ROE



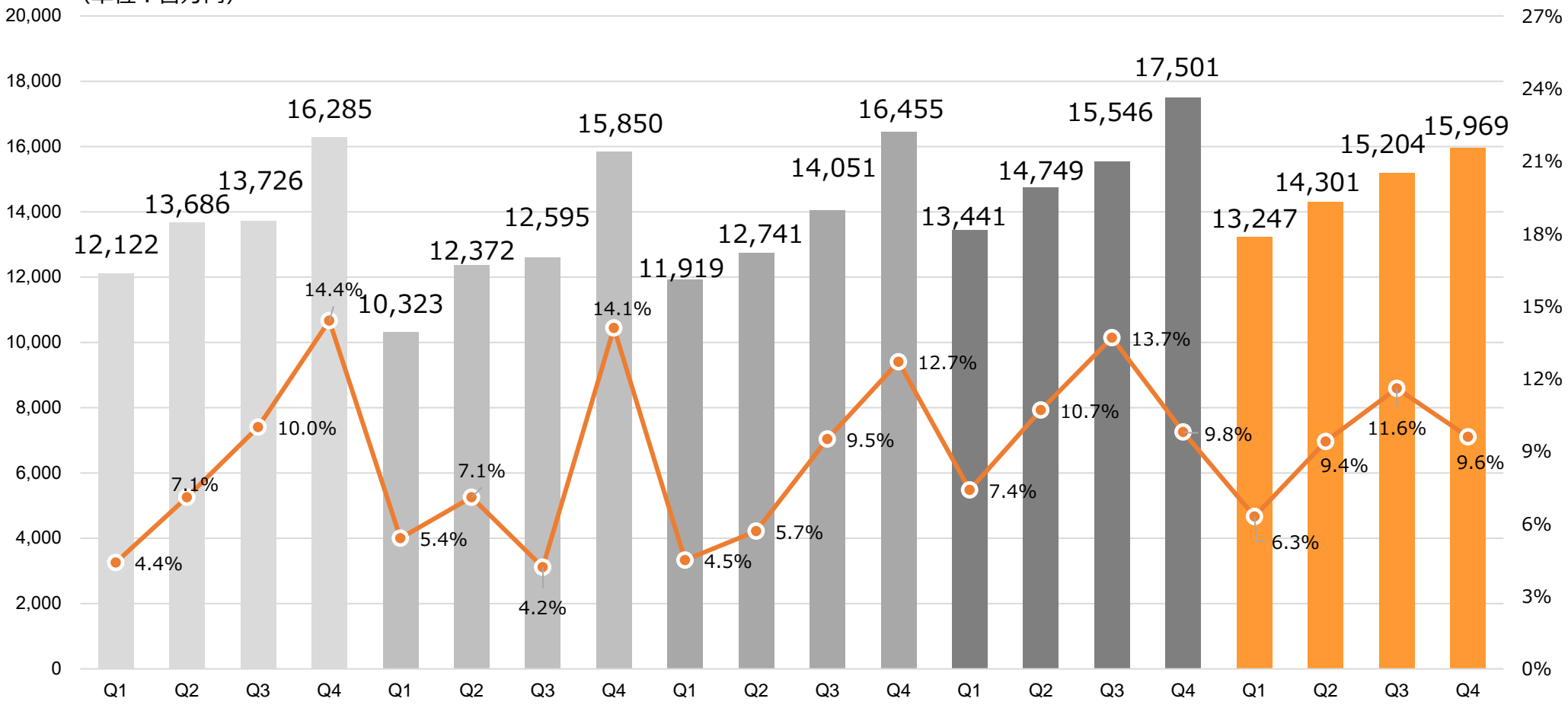
地域別売上高比率



	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
海外比率	77.3%	74.3%	76.0%	73.6%	74.2%
為替平均レート					
USD	120.1円	108.4円	110.9円	110.9円	108.7円
CAD	91.8円	82.5円	86.5円	84.6円	81.8円
EUR	132.6円	118.8円	129.7円	128.4円	120.8円
RMB	19.2円	16.4円	16.6円	16.7円	15.8円
設備投資額(百万円)	2,013	2,393	1,411	1,416	1,689
減価償却費(百万円)	1,814	1,792	2,116	2,470	2,711

売上高および営業利益率（四半期比較）

(単位：百万円)



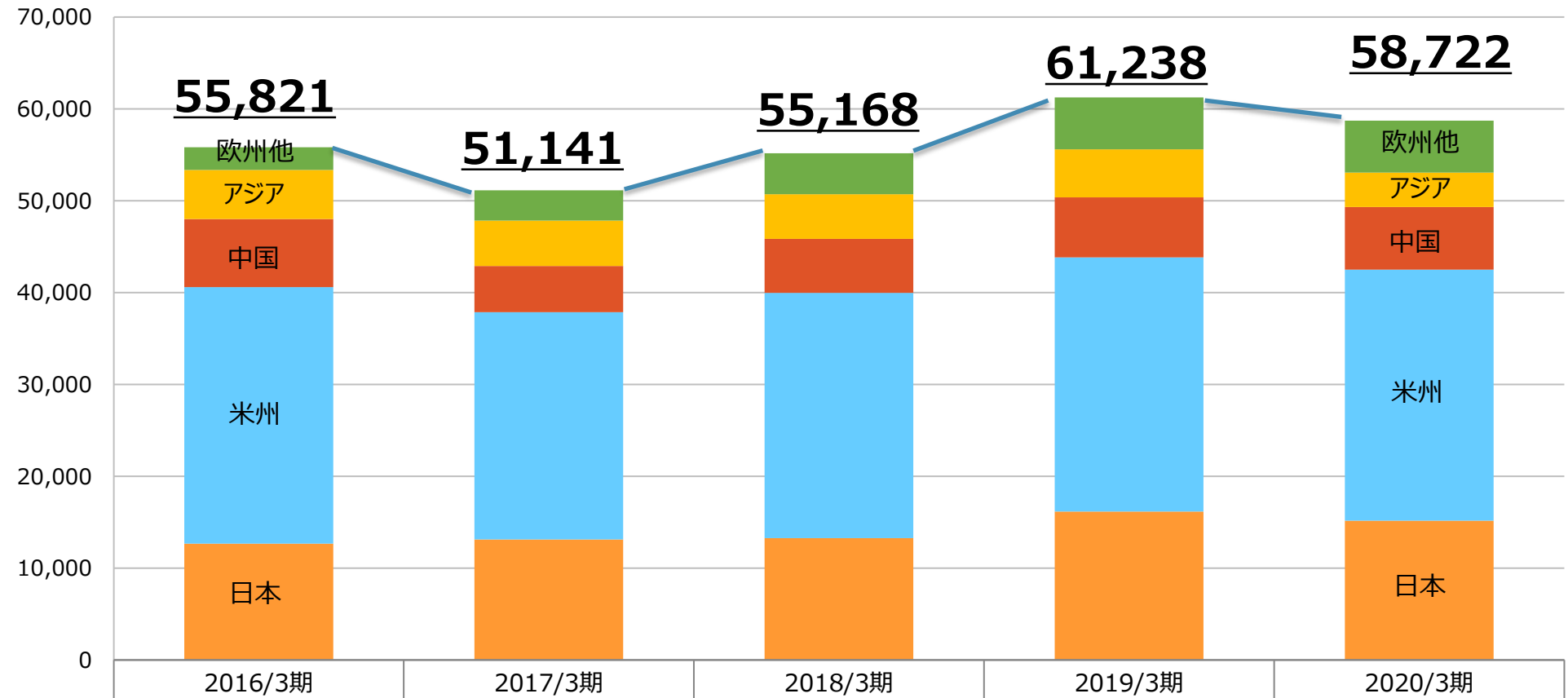
営業利益

538 966 1,371 2,345 561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717 837 1,339 1,769 1,526

2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
売上高 55,821	売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238	売上高 58,722
営業利益 5,221	営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413	営業利益 5,474

地域別売上高推移

(単位：百万円)



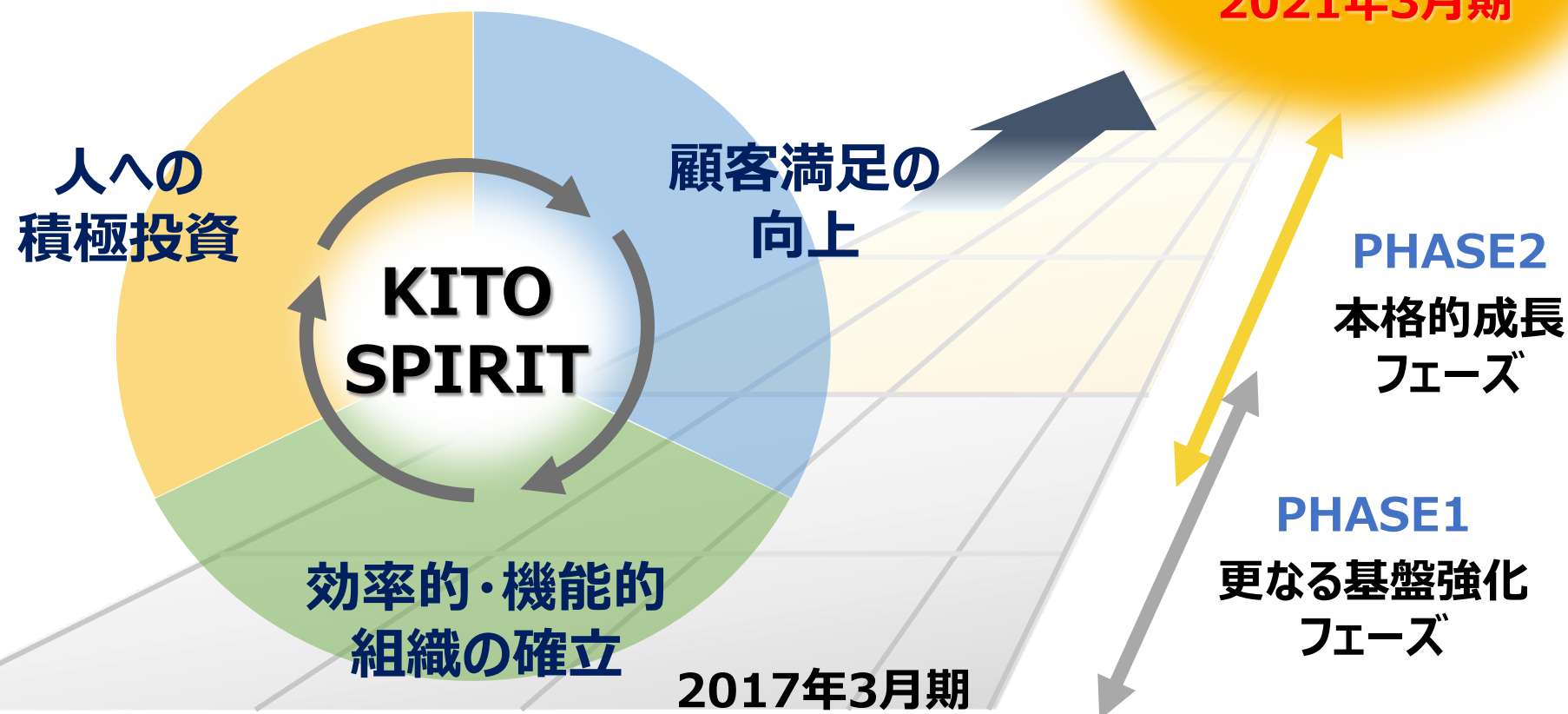
■ 欧州他	2,479	3,308	4,465	5,634	5,663
■ アジア	5,321	4,925	4,837	5,239	3,729
■ 中国	7,418	5,034	5,903	6,539	6,822
■ 米州	27,909	24,742	26,700	27,663	27,332
■ 日本	12,692	13,129	13,261	16,162	15,174

中期経営計画 (2017年3月期-2021年3月期)

基本方針

3つの基本方針による“KITO SPIRIT”を原動力とした推進

- 1) 「顧客満足の上昇」を第1の基本方針とする。
- 2) それを実現する「効率的で機能的な組織」を作る。
- 3) そして、組織を作る「人」への積極的な投資を行う。



3つの経営目標に向け 収益倍増を目指す

1 高収益体質への回帰

- ・生産設備リニューアル
- ・高収益事業への集中

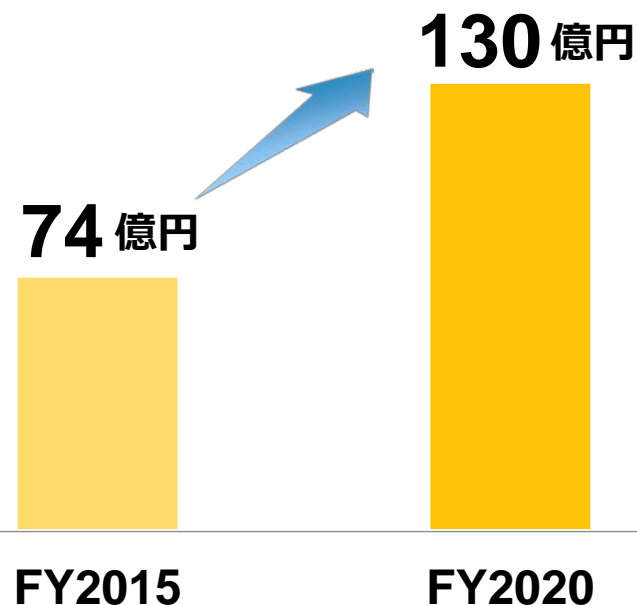
2 製品ポートフォリオ拡充による成長

- ・新製品の投入
- ・M&Aによる拡充
- ・既存製品の新市場への投入加速

3 真のグローバル企業への組織進化

- ・グローバル人材の採用と育成
- ・主要拠点における統一基幹システムの導入
- ・グループ内統一マーケティング・データベースの構築

Financial Target (EBITDA)



Phase1(基盤強化) から Phase2(本格的成長) へ

“Lifting Expectations”



事業内容

モノを持ち上げ、運び、固定する作業に不可欠な、 マテリアルハンドリング機器の リーディングカンパニー



経済の発展段階に応じた需要

特定の業界の動向に依存せず

成熟製品でありながら成長産業

■ クレーン

ホイストとの組合せで3次元の動きを実現



■ ホイスト（巻上機）

主力はクサリ（チェーン）式（電動・手動）
ワイヤロープ式もラインナップ（電動）
（中国においてはロープ式が主力）



■ ビローフックデバイス （吊り具）

ホイストで荷物を吊り上げる際の
中間アタッチメント



■ 各種クサリ製品

運搬・移動・固定・牽引
船舶、農林業、タイヤチェーンなど



顧客ニーズの拡大



“KITO” = “信頼のブランド”

製品力

耐久性	高性能
安全性	操作性

技術力

顧客の複雑なニーズへの高い技術対応力（エンジニアリング）

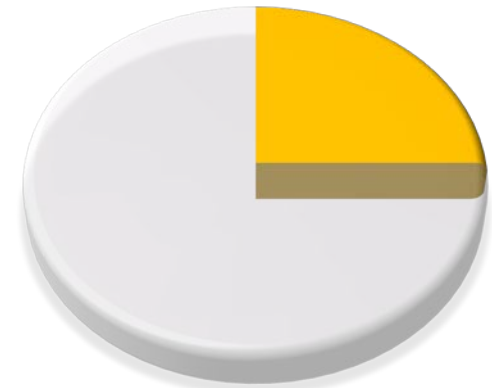
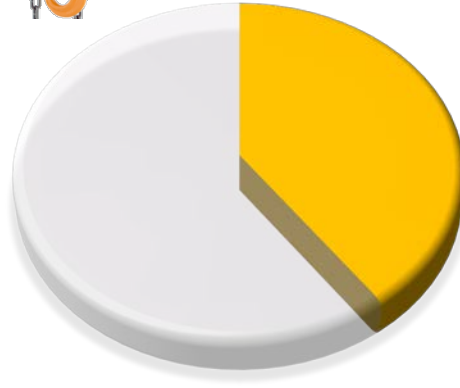
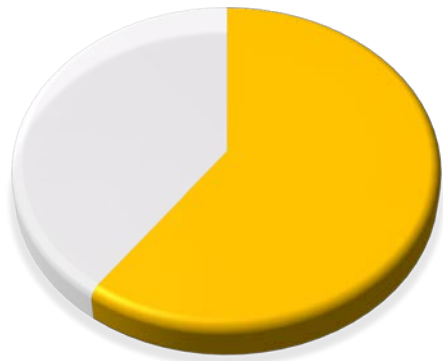
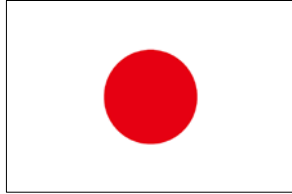
サービスネットワーク

広範なネットワークによる顧客満足度の高いサービスを実現



高付加価値製品・サービスの提供により差別化を実現
高品質市場での高い評価

信頼に基づく高いシェア



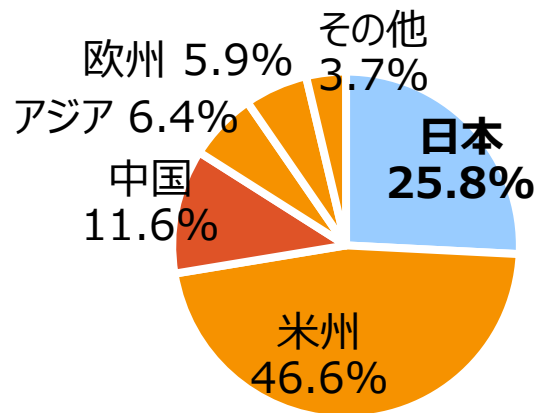
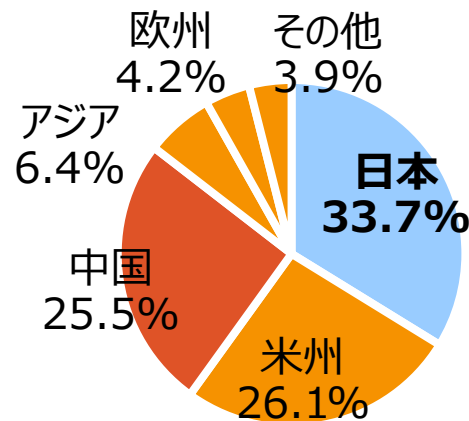
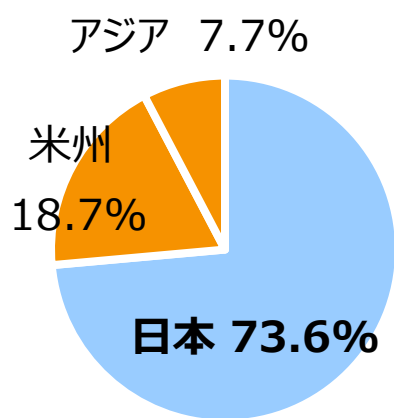
海外市場での成長

- 海外市場での成長により、地域分散の効いた事業ポートフォリオ構築
- 特定地域の需要動向に振られることなく、着実な成長を実現

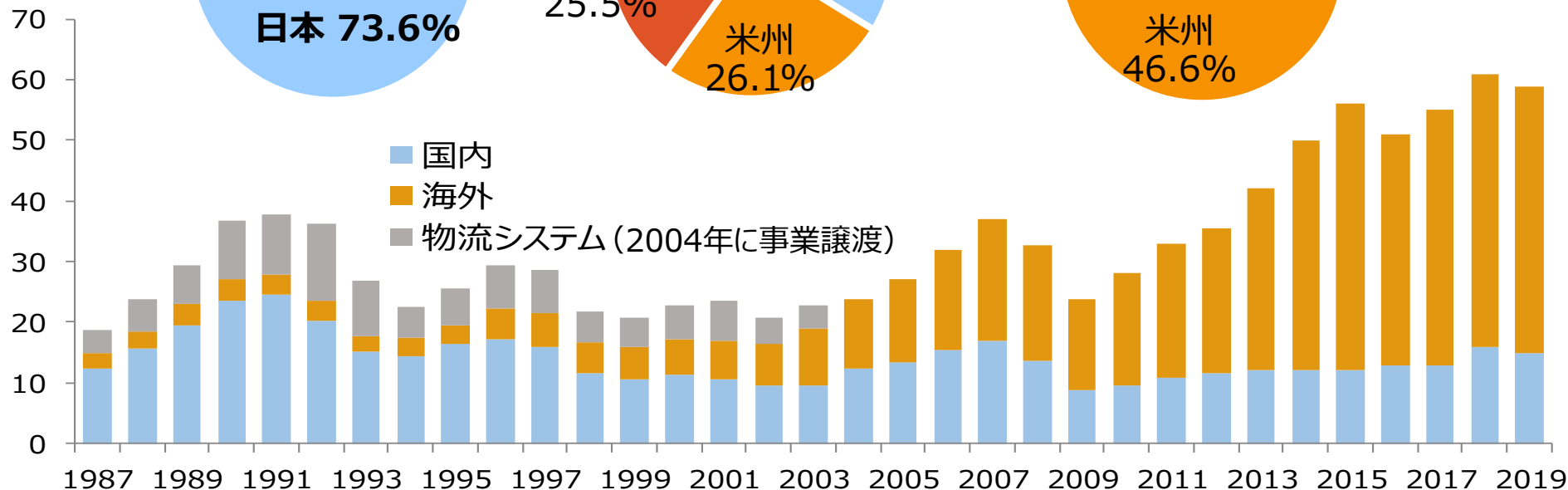
FY2000 売上高227億円
海外売上比率 26.4%

FY2010 売上高280億円
海外売上比率 66.3%

FY2019 売上高587億円
海外売上比率 74.2%



単位: 10億円



中国事業について

- 全体の設備投資需要が弱含むなかで、好調業種のニーズを捉えると共に、安全意識・品質意識の高まりにより、シェアが拡大
- 高い利益水準を安定的に確保、10%超の営業利益率を継続
- 中国生産の90%以上を、中国国内市場向けに販売

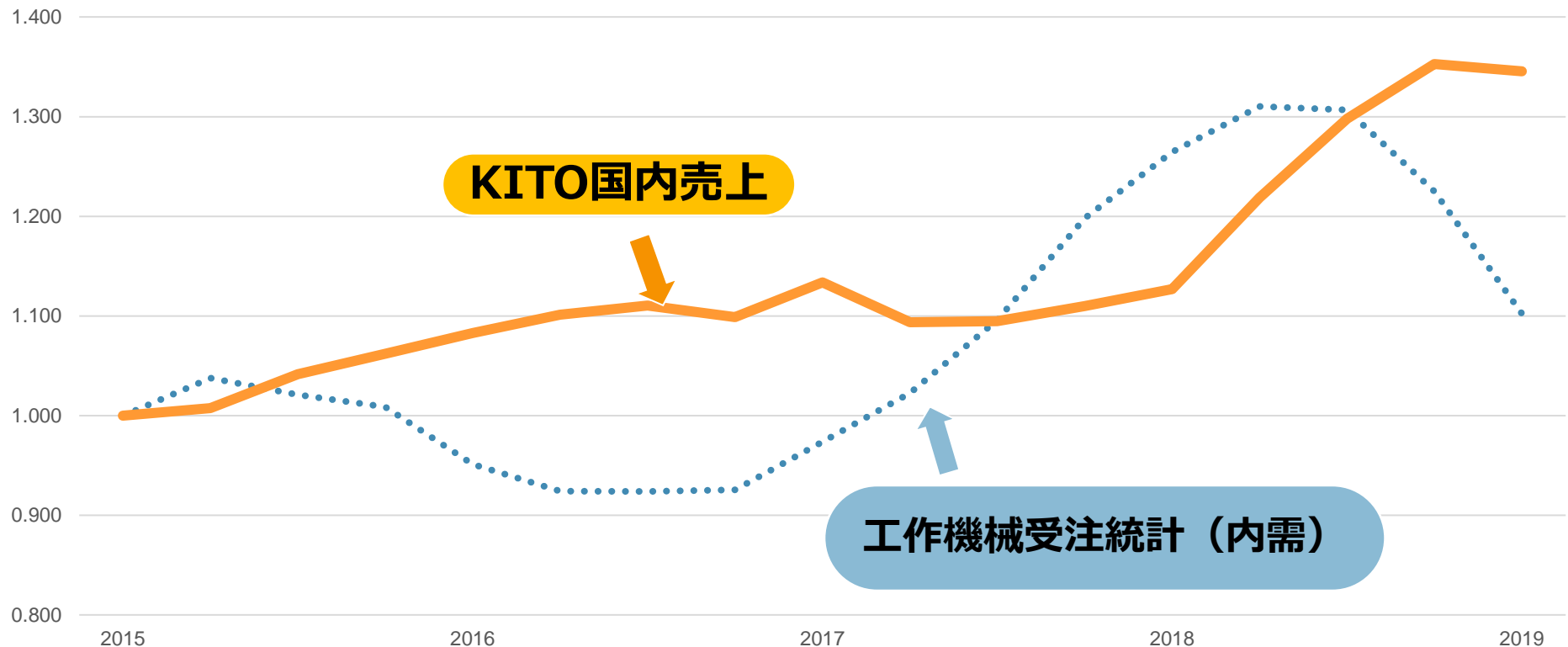
	江陰キトー（1995年 設立）	上海キトー（2004年 設立）
製 品	<u>ワイヤーロープホイストを中心に、</u> 現地生産・現地販売	<u>日本製チェーンホイスト製品</u> の輸入販売
ターゲット	現地の製造業一般	日系を含む外資系企業、中国大手企業
FY2019 売上規模	約4.0億RMB	約1.0億RMB

市場動向に左右されにくい顧客基盤

- 民間設備投資、公共投資を問わず、広範な顧客基盤
- 特定の業界や、市場サイクルの影響を、受けにくい事業構造

工作機械受注統計（内需） キトー国内売上推移（12ヶ月移動平均）

（2015年4-6月期を「1」とした指数変動）



KITO国内売上

工作機械受注統計（内需）